

一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

I 研究の内容

・子どもの課題や実態にあった題材と授業づくり

一人ひとりの力を引き出すための授業の組み立て方の工夫。子どもの課題や実態をとらえ、どのような力をつけたせたいかを考えた題材設定の研究を深める。

・子どもの表現活動によりそう支援のあり方

子どもが「みて、きいて、かんじて」鑑賞や造形活動に向かうとき、どこで悩み、どのような工夫が生まれたのかを読み取る工夫を模索していく。

子どもの表現活動によりそって、おもいが出る、おもいが出せる支援を考えていく。

・つながりと広がり、先を見通した実践の積み重ね

教職員と子ども、子どもと子ども、小学校・中学校のつながり、保護者とのつながり、教科と教科、題材と題材等の関連・連携を図って美術教育を進め、広げていく工夫を考えていく。

1 研究の柱に沿って小中合同で授業案の検討、実践、検証を行う。また一人一実践による作品研究を実施し、授業のあり方を考える。

(1) 小学校の実践から(2月統一授業研)

第2学年「ふわふわ〇〇さん」A表現(2)B鑑賞(1)東雲小 古屋 ゆか

教科書題材を、子どもたちの実態に合わせて改題した実践。柔らかくした新聞紙を入れたビニール袋を縛ったり、留めたりしてできる形を、生きものに見立てて作品をつくっていく授業であった。子どもたちは、ひもを使って縛るという行為に少々苦労しながらも、新聞紙の手触りやビニール袋の形の変化を楽しみ、その子なりの〇〇さんをつくりだしていた。教科書の題材もそのまま与えるのではなく、子どもたちの実態や状況に応じて、材料や用具に変化をつけることで様々な展開が期待できる。また、造形活動を通して子どもたちにつけさせたい力が技術の習得や習熟に偏らないように、授業のねらいをしっかりとつことが重要であるとの認識が改めて確認された実践であった。

(2) 中学校の実践から(9月統一授業研)

「素材の気持ち・喜怒哀楽」A表現(1)(3)B鑑賞(1)山梨北中 五味一也

コラージュを用い、顔に表出した「表情」を様々な素材を張り合わせ、表現する授業であった。ロンドン五輪で活躍した体操の内村航平選手の様々な表情をとらえたDVDやプリント等、生徒の表情に対する意識を高める導入の工夫がされていた。生徒たちが使用できる材料や用具も様々な用意がされていたが、かえってそれが生徒たちの意識を素材自体にむけてしまい、喜怒哀楽を表現するよりも素材との関わ

りが主となってしまっていた。生徒の実態を一番知っている授業者が、しっかりとした意図をもって、造形活動を通して生徒たちにつけさせたい力を明確にすることが大切だと討議された実践であった。

(3) 県教研レポート

「まほうのはさみ・・・つなげよう、ゆめ！」 大藤小 青柳 仁美

紙皿や紙コップなどをはさみの使い方を工夫しながら切り、作品づくりを楽しむ活動を行った。切り終わると立体的になったり、バネのような動きをすることもある紙皿や紙コップを材料にすることで、子どもたちは夢中になって取り組んでいた。また切った形を色々な方向から見たり、他の材料を加えたりしながら変身させることにより、一つの材料の生かし方や面白さを体感し、表現が広がっていった。子どもたちの実態を的確に把握し、つけたい力を明確にしながら、題材名や導入部分の工夫で子どもたちの表現したい意欲を効果的に引き出し、多様に展開させることができている、質の高い実践との評価であった。

2 実技研修を実施し、授業に還元する。

「絶対かえってくるブーメラン」「ガラスやビニールにも描ける絵具」

どちらもすぐに授業にいかせる内容であったが、特に絵具づくりは台所用洗剤という身近なものを混ぜるだけで、ふつうは絵具をはじいてしまって描けないガラスやビニールにもしっかりと色をのせることができるという驚きがあり、大変有意義な学習会となった。

3 研究会会場を持ち回りにし、各校の学習環境や展示環境も参考にする。

II 成果と課題

1 成果として

・研究テーマに沿って、一人ひとりが実践的にとりくむことができた。子どもたちの発達の段階を考えながら美術図工でどんな力をつけさせたらよいのか、そのためにはどんな題材や授業を仕組みればよいのか、全員で研究を深めることができた。小中いっしょに研究を進めているので、互いの子どもたちの実態を知りながら、小中の連携にもつとめることができた。毎回の作品研究は、東山図工・美術部会研究の質の高さをうかがわせるもので、他郡に抜きん出ている。

2 課題として

・図画工作・美術教育が、技法や鑑賞方法の習熟といった視点から、造形活動を通した子どもたちの認識の問題であることが言われて久しい。再度確認しながら実践や研究を深めたい。

・部会員の減少により、部会員のいない学校が減っている。学んだことが、他の学校に広がっていきにくい。

・研究の内容が数年にわたり積み重ねられてきているので、外部からの意見交流も入っていききたい。

(部長 小澤 朋子)